

## 福島区を知る—野田藤—

野田のあたりは古来より藤が群生し、室町幕府二代将軍足利義詮や豊臣秀吉も藤の花見に訪れたと伝えられています。江戸時代には出版された『摂津名所図会』にも取り上げられています。明治以降衰え、昭和20年の空襲でほぼ全滅しますが、その後の再生運動により、今では区内各所で野田藤を見ることができるようになりました。福島区の「区の花」にもなっています。

『摂津名所図会 1』秋里籬島著 新典社 1984 \*

『野田-創立100周年記念誌-』創立100周年記念誌編集委員  
一同編集 大阪市立野田小学校創立100周年記念事業委員  
会 2003 \*

『わたしたちの野田』大阪市立野田小学校副読本作成委員会  
編 大阪市立野田小学校 2003 \* 

『玉川-創立百周年記念誌-』大阪市立玉川小学校創立100  
周年記念誌作成委員会編 大阪市立玉川小学校創立100周  
年記念事業委員会 1974 \*

『野田藤と円満寺文書』内田九州男・和田義久編 円満寺  
2003 \*

『なにわのみやび野田のふじ』藤三郎著 東方出版 2006 \*

『よみがえった福島区の花 のだふじ』藤三郎著 谷口印刷  
紙業(印刷) 2017 \*

大阪市福島区: のだふじコーナー

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushima/page/0000194121.html>


大阪市福島区: 名所・旧跡 野田の藤跡

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushima/page/0000000858.html>

\*それぞれのトピックについては、**WEB**「福島図書館」→「福島区を知る」→「郷土史よくある質問」の項目もご参照ください。

この調べかたガイドでは、福島区の歴史をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

福島図書館に所蔵しているものは、書誌事項の後に\*をつけて表示しています。( \* の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

小学生から読めるものは書誌事項の後に  オムリンマークをつけています。

**WEB** 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。

より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド: 各区版

## 福島区の調べかた

福島区の史跡・名勝—野田城跡—

福島区の人物—松瀬青々—

福島区の民俗・文化

—羽間(はざま)文庫—

福島区を知る—野田藤—



福島区の花  
「のだふじ」



福島区マスコットキャラクター  
「フッピー」

## 大阪市立福島図書館

〒553-0006 大阪市福島区吉野3-17-23

TEL 06-6468-2336

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

**開館時間** 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日

10:00～17:00

**休館日** ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始 ●蔵書点検期間

## 福島区の調べかた

Ver. 4 2026.3改訂

### 福島区の史跡・名勝—野田城跡—

野田城は、1531(享禄4)年頃に築かれ、後に畿内一円に勢威をふるった三好一党が改築したのではないかと推測されていますが、現在は痕跡を見つけることはできません。明治の初め、「城之内」「弓場」という地名が残されていたことから、玉川付近にあったと推察されており、地下鉄千日前線「玉川駅」出口すぐ「野田城跡」の石碑が建てられています。

『わがまち史跡めぐり』福島区役所企画総務課 2001 \*

『野田-創立100周年記念誌-』創立100周年記念誌編集委員  
一同編集 大阪市立野田小学校創立100周年記念事業委員  
会 2003 \*

『大阪春秋80号 野田・福島』大阪春秋社 1995 \*

『わがふるさと』大阪福島ライオンズクラブ 1984 \*

『福島区歴史と史跡探訪』大阪都市協会編 福島区青少年対  
策連絡協議会 1984 \*

『福島区史』大阪都市協会編 福島区制施行五十周年記念  
事業実行委員会 1993 \*

大阪市福島区：名所・旧跡 野田城跡伝承地

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushima/page/000000858.html>

### 福島区の人物—松瀬青々(まつせせいせい)—

松瀬青々は本名を松瀬弥三郎といい、1869(明治2)年、大川町(現大阪市中央区北浜)に生まれました。その地には、「松瀬青々生誕地碑」が建っています。生家の家業を嫌い、小学校を卒業すると、漢詩、数学、書、和歌などを学びました。俳誌『ホトギス』などに投句し、高浜虚子や正岡子規と出会います。また、朝日新聞社に入社し、朝日俳壇を担当しました。1901(明治34)年、俳誌『宝船』(のちに『倦鳥(けんちょう)』と改題)を創刊し、没年までこれを主宰しました。また、句集『妻木』などを刊行し、関西俳壇の中心となりました。

1906(明治39)年から1921(大正10)年まで、福島区海老江に住み、地元で句会を開催しました。海老江4丁目の旧宅跡に「松瀬青々旧跡」の碑、南桂寺境内には、青々の門人たちが建立した「青々先生」の碑があります。

『大阪の俳人たち 2』大阪俳句史研究会編 和泉書院 1991\*

『福島区史』大阪都市協会編集 福島区制施行五十周年記念  
事業実行委員会 1993 \*

『南桂寺と海老江』奥林享著 南桂寺 1997 \*

『俳人松瀬青々』堀古蝶著 邑書林 1993 \*

『松瀬青々全句集 上・下・別巻』茨木和生監修 松瀬青々  
全句集編集委員会編 邑書林

上巻 2011 \* 下巻 2006 \* 別巻 2014 \*

大阪市福島区：名所・旧跡 松瀬青々旧跡

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushima/page/000000858.html>

### 福島区の民俗・文化—羽間(はざま)文庫—

海老江の羽間平三郎氏(昭和47年没)が、江戸時代の町人天文学者間重富(はざましげとみ)らゆかりの天文関係資料を中心に、近世大阪の郷土資料や近江の蒲生氏に関する資料などを生涯かけて収集保存し、羽間文庫と名づけました。1970(昭和45)年には文庫資料が大阪府指定有形文化財に指定され、1996(平成8)年から1999(平成11)年にかけて天文資料を含む文庫資料が一括して大阪市立博物館(現大阪歴史博物館)に寄贈されました。

『大阪春秋80号 野田・福島』大阪春秋社 1995 \*

『大阪の歴史68号』大阪市史料調査会 2006 \*

『羽間文庫-町人天文学者間重富と大阪-』大阪市立博物館  
1999 \*

『福島区史』大阪都市協会編 福島区制施行五十周年記念  
事業実行委員会 1993 \*

『わがふるさと』大阪福島ライオンズクラブ 1984 \*

『大阪史蹟事典』三好貞司編 清文堂出版 1986 \*

大阪市福島区：名所・旧跡 羽間文庫

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushima/page/000000858.html>



「摂津名所図会 3」より『野田』

WEB「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→「摂津名所  
図会」で検索

<https://image.oml.city.osaka.lg.jp/da/detail?tilcod=000000021-OSK0165097>